

つなげよう つながろう ふたばのわ

「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを深めるためのコミュニティ紙です。自治会・団体の活動紹介や町民同士の新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。「ふたばのわ」を通して町民のみなさんのつながりや笑い合う場を増やしていけたら。



- ▶ ふたばのつながりが笑顔の源～県北ふたば会×県南双樹会交流会(P2～3)
- ▶ あなたにとってふるさととは？～ふたば×いわきスタディーツアー(P4～5)
- ▶ ふたばのわスマイルフォト(P6) ▶ お知らせ(P7)
- ▶ 放射線モニタリング情報・後世に残したい双葉町・編集後記(P8)

■発行：双葉町秘書広報課(☎0246-84-5202) ■企画・編集：ふたさぼ(双葉町復興支援員)



インターネットでもつなげようつながろうふたばのわ
(町公式フェイスブックページ)

▶ <http://facebook.com/fukushima.futaba>

—ふたばのつながりが笑顔の源—

県北ふたば会 × 県南双樹会

交流会



地域を越えた交流

6月12日(金)、白河市関の森公園にて、福島市と白河市で活動している「県北ふたば会」と「県南双樹会」の交流会が開催されました。

県北ふたば会の呼びかけをきっかけに実現した両自治会の交流会。約80人が集まり、県南双樹会のみなさんが作った餅とそばを囲んで、笑顔あふれる楽しい時間となりました。

両自治会長からは次のような挨拶があり、交流会実現の喜びを分かち合いました。

「各地にいる双葉町のみなさんにずっと会いたいと願っていた。先輩やお得意さん、日々顔を合わせていた方々。今日はみなさんにお会いできて本当にうれしい」（県南双樹会会長 舘林孝男さん）

「県北ふたば会からの提案を快く受けてくださり、またたくさんのおもてなしをありがとうございます。今度は福島でお待ちしています。笑顔でお迎えするのでぜひ来てほしい」（県北ふたば会会長 嶋崎太郎さん）

準備をしながら心待ち

「いろいろな機会があるとみんなが集まってわいわい準備ができる。そういう意味でも楽しい時間」

この日、食事の席に並んだのは県南双樹会のみなさんが手作りした、じゅうねん餅、

にんにく餅、そして手打ちそば。手打ちそばは地元白河のそば職人の方々に指導を受けながら作りました。

台所には女性陣の楽しそうな声が響き渡り、そば打ち所では男性陣の力強い包丁さばきが見られました。

ふたばのつながりが笑顔の源

交流会に参加したみなさんからは、

「震災前から数年会っていなかった知り合いに、7年ぶりに会えた」

「昨日からみんなと会えるのを楽しみにしていた」

「一から仕事を教えてもらった先輩に、またお会いできてうれしい」

といった言葉が聞かれ、手を取り合い、肩を抱き合いながら、再会を喜びました。

友達。同級生。先輩と後輩。先生と教え子。お隣さんや近所さん。お店のお客さん。

お互いに話がつきることなく、後から後から湧き出てきます。みなさんの顔はほころびっぱなしで、本当に素敵な時間になりました。

地域を越えて双葉町のつながりを確かめ合う時間となった交流会。これからも様々な場所で交流会が開催され、双葉町のみなさんが笑顔になる瞬間がたくさん生まれることを願っています。



あなたにとって
ふるさととは？

ふたば × いわき スタディーツアー

ふるさとと今をもっと知りたの！

5月30日（土）、双葉郡出身の若者を対象にスタディーツアーが開催されました。

これまで計5回開催されてきた「ふたばしゃべり場」で聞かれた「ふるさとと今をもっと知りたい」という若者の声。このツアーを通して、ふるさとのことを知り、ふるさとに対して今自分ができることを考えるきっかけを作りたいという思いでふたさば（双葉町復興支援員）が企画しました。

自分の中にある原動力

ツアーでは、ふるさとへの思いを様々な形で実現させている先輩方をゲ

ストに招き、ふるさとに対する思いや活動に至った経緯などを話していただきました。

「双葉町は自分にとっての原点」

こう話すのは、震災後いわき市でダルマ市を開催している「夢ふたば人」の中谷祥久さんと福田一治さん。震災前、消防団の活動を通して先輩後輩のつながりを学びました。仮設住宅で暮らすお年寄りに双葉町のものを見せてあげたい、そんな思いから「やってみるか」の一言で始めたダルマ市。開催後、たくさんの人からももらった感謝の言葉が原動力となり、今では自分たちがやらなきゃという使命感を持って活動を続けていると話します。

夢ふたば人を突き動かすものとは？



夢ふたば人中谷祥久さん(左)と福田一治さん(右)



又夢ふたば人、な



自分にとってふるさととは？



勿来のみなさんがふるさとに行っていることは？



なごそ復興プロジェクト館敬さん(中央左)



お一人からは「大事なものは、とにかくやってみることに最後まであきらめないこと」そんな当たり前の様でなかなか気づくことのできないメッセージをいただきました。

「自分がこれからふるさととどう関わるのか」

そんな問いかけをしてくれたのは「なごそ復興プロジェクト」の館敬さん。

地元の多世代の人と知り合いたいと青年会議所に入ったことをきっかけに、いわき市勿来地区の震災からの復興とまちづくりをテーマに活動を続けてきました。双葉町との関わりや震災の教訓を次の世代に伝えるための取り組み、また、津波被災地の見学の際に

は津波被災がもたらした地域の分断や住民の思いを丁寧に説明していただきました。

自分自身も楽しみながら地域活性に取り組んでいるみなさん。地域の様々なつながりの中で生活することで育まれた「人と人のつながりを大切にすることが大切にする気持ち」が今の活動の原動力となっているようです。

先輩からの思いを受け

ツアーの最後に行われた振り返りの時間には、このツアーに参加した動機、ツアーを通して感じたことやふるさとに対して今自分ができることを参加者に考えてもらいました。

「同世代とふるさとについて話したかった」

「自分が何をしたらよいかヒントをもらいたかった」

「インターネットで知る情報ではなく、実際の声を聞いて良かった」

「ふるさとに対する思いは自分もゲストの方も一緒。でも、自分達とは行動力が違うと感じた」

「またこのような機会があれば次は友達と一緒に参加したい」

「ダルマ市にブースを出し、双葉の味を復活させる」

先輩方から言葉以上のものを受け取った参加者のみなさん。ツアーで感じ学んだことを心に刻み、今のふるさとへの思いを形にしてくれることを願っています。

ふたばのわ スマイルフォト

～笑顔でみんなをつなげたい～



5月25日
いきいきサロン
ピアノ教室
(加須市)



5月28日
いわき・まごころ双葉会婦人部
はさみケース作り教室&お茶会
(いわき市)



6月3日
いきいきサロン
花菖蒲園散策
(館林市)



6月6日
成人式実行委員会
(いわき市)



6月13日
ふたば会(立川市)



6月15日
石巻と双葉の交流
(白河市・福島市)



6月16日
南相馬ひだまりサロン
(南相馬市)



町からのお知らせ

情報

住宅の二重ローンでお困りの方を応援します

福島県では、東日本大震災で住宅を被災された方の生活再建を支援するため、住宅の二重ローンを抱える方に対する利子補給を行います。補助金(利子補給金)は、新たな資金を借り入れる金融機関等を通じてお申込みいただけます。住宅ローンを取り扱う金融機関等にご相談ください。



補助の対象となる方(次の要件すべてに該当する方)

- | | | |
|---|--|--|
| ①東日本大震災により自らが居住していた住宅が被災し、市町村から全壊、大規模半壊、半壊のうちいずれかの「り災証明書」の発行を受けた方 | ②平成23年3月11日時点で、被災住宅に対し融資残高(複数の借入がある場合はその合計額)が500万円以上の既存住宅ローンがある方 | ③福島県内に自ら居住するための住宅に対し、借入額(複数の借入がある場合はその合計額)が500万円以上の新規住宅ローンがある方 |
|---|--|--|

補助額

新規住宅ローンを契約した時点の、既存住宅ローンの債務残高と利率等に基づき、元利均等毎月償還方式で算定した今後5年間分の利子相当額を、140万円を上限に一括交付します。

既存住宅ローンとは

住宅の建設、購入、増改築、補修を目的に融資機関から借入れをした資金で、平成23年3月11日以前に金銭消費貸借契約を契約したもの

新規住宅ローンとは

住宅の建設、購入、補修を目的に融資機関から借入れをした資金で、平成23年3月11日～平成28年2月末に金銭消費者貸借契約を締結したもの

申込みの手続き

新規住宅ローンの借入金金融機関等に交付事務に関する手続きを委任するだけで済みます。

Step1 融資残高等証明書の入手

既存の住宅ローンを借り入れている金融機関等から、融資残高等証明書の発行を受けてください。(発行依頼にあたっては新規の住宅ローンの金銭消費貸借契約書の写しを添付してください)

Step2 金融機関等への委任

次の書類を添付し、新規の住宅ローンを借り入れた金融機関等に委任状を提出してください。

- ①市町村長が発行する「り災証明書」
- ②既存の住宅ローンの借入金金融機関等が発行した融資残高等証明書
- ③他の有志機関からも新たな住宅ローンの借入がある場合は、その金銭消費貸借契約書の写し(委任する金融機関等からの借入だけで500万円以上となる場合は不要です)

※補助金(利子補給金)は、委任した金融機関等を通じて指定した口座に支払われます。

注意!

- 交付事務の手続きを委任できるのは、県と事務処理に関わる協定を締結している金融機関等となります。委任可能な金融機関等や詳しい手続き方法については県のホームページでご確認ください。
- 融資残高等証明書及び委任状の用紙は県のホームページからもダウンロードできます。



ホームページの検索方法

福島県二重ローン

検索

タブレットや携帯電話のQRコードリーダーを使ってバーコードを読み取ると福島県のホームページから詳細をご覧いただけます。

問い合わせ先

被災者向け住宅相談窓口専用ダイヤル
TEL 024-521-7698 (平日午前9時から午後5時まで)
福島県土木部建築指導課
TEL 024-521-5764 FAX 024-522-6383

サマージャンボ
サマージャンボミニ7000万

◆発売期間◆
7月8日～7月31日

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよい街づくりに使われます。



放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

平成27年6月26日

- ①福島市 北幹線第二応急仮設住宅……………0.15~0.24
- ②福島市 さくら応急仮設住宅……………0.12~0.21
- ③郡山市 日和田応急仮設住宅……………0.12~0.27
- ④郡山市 喜久田応急仮設住宅……………0.10~0.54
- ⑤郡山市 富田応急仮設住宅……………0.24~0.26
- ⑥いわき市 南台応急仮設住宅……………0.05~0.07
- ⑦猪苗代町 上川原応急仮設住宅……………0.07~0.08
- ⑧会津若松市 第二中学校西応急仮設住宅……………0.07~0.09
- ⑨白河市 郭内応急仮設住宅……………0.12~0.15
- ⑩福島市 県北保健福祉事務所……………0.22
- ⑪郡山市 県郡山合同庁舎……………0.13
- ⑫白河市 県白河合同庁舎……………0.09
- ⑬会津若松市 県会津若松合同庁舎……………0.06



- ⑭南会津町 県南会津合同庁舎……………0.05
- ⑮南相馬市 県南相馬合同庁舎……………0.10
- ⑯いわき市 県いわき合同庁舎……………0.07

双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

地区	地点	平成24年 4月1日	平成27年 6月26日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	0.97
新山	新山公民館	—	0.56
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.55
新山	双葉南小学校	—	0.63
新山	双葉中学校	—	0.67
新山	県立双葉高等学校	—	0.87
新山	中央公園	—	0.73
下条	双葉総合公園	2.60	1.26
下条	双葉町役場	—	0.40
郡山	郡山公民館	1.48	0.71
細谷	細谷公民館	2.31	0.96
三字	三字公民館	2.53	1.21
山田	山田農村広場	24.47	9.72
石熊	石熊公民館	12.10	5.24
長塚	双葉町体育館	6.25	2.51
長塚	長塚二公民館	3.26	1.29

地区	地点	平成24年 4月1日	平成27年 6月26日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	2.75
長塚	町西住宅	—	0.57
長塚	JAふたば北部営農センター	—	7.99
長塚	双葉北小学校	—	2.42
長塚	ふたば幼稚園	—	2.10
長塚	双葉駅北側駐車場	—	0.67
長塚	双葉町児童館	—	0.42
羽鳥	上羽鳥	1.89	0.93
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.76
寺松	寺松公民館	3.46	1.65
渋川	渋川公民館	1.48	0.67
鴻草	北部コミュニティーセンター	4.30	2.11
中田	中田公民館	0.77	0.38
両竹	両竹公民館	0.54	0.20
浜野	浜野公民館	0.34	—

原子力規制委員会ホームページより

※全国及び福島県の空間線量測定結果については原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。▶<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

編集後記

じゅうねん餅とにんにく餅がふるまわれた
県北ふたば会と県南双樹会の交流会。

みなさんが準備をしている横でお話を聞かせてもらっていたら、「味見してみ」ということで大きなお餅が目の前に3つ。交流会が始まる前に一足先におなかいっぱいになってしまいました。

「双葉ではこのお餅をよく振る舞ってたんだよ。田舎の味だね。懐かしい味をこうやってみんなで準備できるのが本当にうれしい」と話すみなさんの笑顔がとても印象的でした。

こういった地域間の交流がこれからもたくさん行われることで、そんな瞬間がたくさんつくられたらうれしいなと感じました。

(ふたさぼ 小林辰洋)

後世に残したい双葉町

海の近くで育ったため、双葉の海には数えきれないほどの思い出があります。

弟と一緒に自転車で海に行き水着のまま帰ってきていたことや小学生の時に北小と南小合同でキャンプをしたことも覚えています。マリンハウスができる前の木造の海の家も印象に残っています。

大人になってからは自分の子供を連れて海水浴に行きましたし、仕事で元旦の暗いうちから交通整理をしたこともありましたが、双葉町での思い出のほとんどが海につながります。

現在、いわき事務所に勤務しているため、海の近くを通り浜風にあたりと双葉の海の風景や潮の匂いを懐かしく思い出します。いつかまた震災前のようにいつでも気軽に行ける海になることを願っています。

